

平成29年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 引野 小学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、平成29年6～7月に、5年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部です。

1. 調査の目的

- (1) 子どもの体力等の状況に鑑み、国が全国的な子どもの体力の状況把握・分析することにより、子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各公立学校が全国的な状況との関係において自らの子どもの体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子どもの体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各公立学校が各児童の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

2. 調査内容

(1) 実技に関する調査

[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

(2) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

全国・本市・本校の実技調査の結果

<男子>

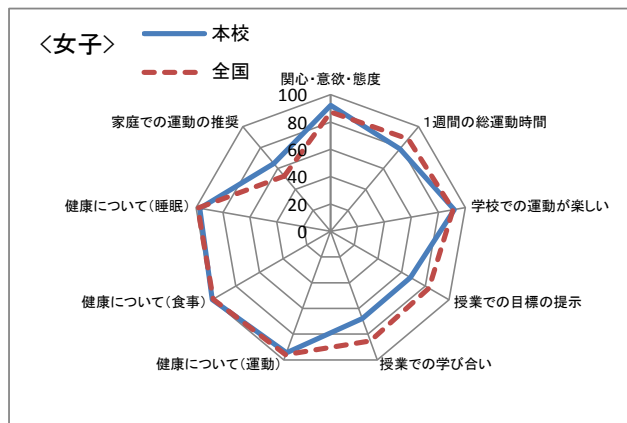
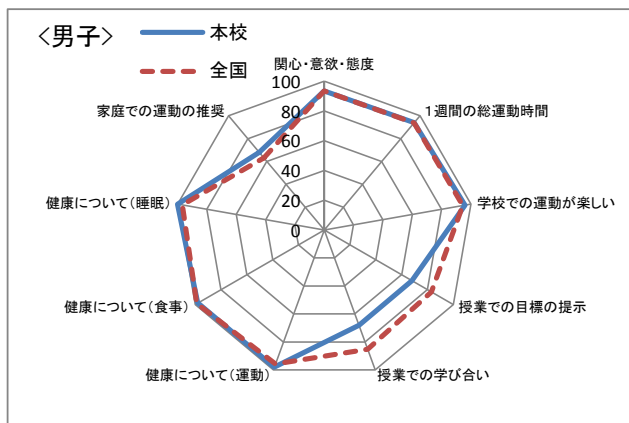
本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	16.51	19.92	33.15	41.95	52.24	9.37	151.71	22.53	54.16
本市	16.67	20.32	33.09	40.91	52.67	9.38	152.51	24.17	54.37
全国平均以上の種目	○	○			○	○	○	○	○

<女子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	16.12	18.81	37.43	40.06	41.62	9.60	145.47	13.94	55.72
本市	16.47	19.16	37.19	39.55	42.13	9.62	145.98	14.41	55.96
全国平均以上の種目	○						○		

4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査レーダーチャート



質問紙調査の結果分析

・「体育の授業が楽しい」と答えた児童は、全国平均を上回っている。1週間の総運動時間は、男女差が大きい。健康であるためには、運動、食事、睡眠が大切であることは、ほとんどの児童が思っている。体育の学習での「めあて」の提示が少ないこと、授業での子ども同士の学び合いが少ないことが課題としてあげられる。1単位時間の中で、運動量の確保とともに、子ども同士の話し合いや教え合いを学習の中に取り入れていく必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

・体力、運動能力の調査結果から、男子には柔軟性と敏捷性に、女子には柔軟性、敏捷性、持久力、瞬発力に課題があることがわかる。体育の学習の初めに、ストレッチや反復横跳びやランニング等を取り入れる。北九州市体力向上プログラム(準備運動編)を参考に、単元に応じた内容の準備運動を実施していく。

② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

・家の人からスポーツをするように進められている割合は高い。しかし、学校で体を動かしながらいない児童もいるので、中休み・昼休みは外で遊ぶように奨励していく。健康と運動・睡眠・食事の関係について理解している児童が多いが、食事をとらなかったり、睡眠時間が8時間以下の児童もいる。保健便りや学校通信等で保護者に啓発する。学校全体で毎年取り組んでいるマラソンや縄跳びなど、期間を長く取り組む等工夫をしていく。